

科目名	HST310: 東洋研究		担当教員	玉置 真紀子
開講期	春	開講時限	火金2限	

【評価方法：変更あり】

【評価基準：変更あり】

評価方法	① 授業課題：授業後に提出するリアクションペーパー 2%×24 回=48% ② 中間レポート：22% ③ 期末レポート：30%
評価基準	① 授業課題：授業内容を理解した上で、質問に対して（1）自分の考えを論理的に説明すること、（2）具体的に記述すること、を求める。これができるいれば2点、感想のみの場合は1点となる。 ②&③ 中間レポートと期末レポート：（1）問題に対し適切な解答を、授業で学んだ用語や理論を援用し、多方面から論理的に説明すること、（2）課題解決型の問題の場合は具体的な解決策を提案すること、（3）自分の経験に引き寄せて検討すること、を求める。感想のみの場合は減点対象とする。

※その他の変更点

セクション名 (欄名)	変更内容
「授業計画」内の「テーマおよび学習内容」	第14回の「授業内試験」を実施しない。
「授業計画」	「定期試験を実施する」を「定期試験を実施しない」に変更する。

科目名	HST301: 英米史		担当教員	森下 園
開講期	春	開講時限	火金4限	

【評価方法：変更あり】

【評価基準：変更あり】

評価方法	①授業での質問・意見（1、2回、最終回を除く）：1%×25回＝25% ②授業課題：Moodleで次の授業開始時まで提出、2%×20回＝40% ③レポート：授業で扱ったトピックについてのMoodle提出レポート、35%
評価基準	①授業での質問・意見：積極的に表明しているか、授業内容を理解しようとしているか。 ②授業課題：自分で調べた内容を自分の言葉でまとめているか、提出期限を守っているか。 原則として授業を欠席した回の授業課題は採点対象としない。 ③レポート（3000字）：授業で扱った内容について各自が調べたことを付加し、適切な用語を用いて論述できているか。 いずれも研究倫理を守らない（友達の課題を写す、またはネット情報や事典類などから無断引用する）場合は0点とする。

※その他の変更点

セクション名 (欄名)	変更内容
「授業計画」	「定期試験を実施する」を「定期試験を実施しない *定期試験期間中にレポートを提出」に変更する。
「授業計画」内の「準備学習」	22回～26回の「定期試験の準備」を「レポートの準備」に変更する。
「授業計画」内の「テーマおよび学習内容」	28回の「定期試験の講評」を「レポートの講評」に変更する

科目名	HST300: 比較社会史			担当教員	森下 園
開講期	秋	開講時限	火金3限		

【評価方法：変更あり】

【評価基準：変更あり】

評価方法	①授業課題：Moodle で次の授業開始時まで提出、3%×25回=75% ②レポート(3000字)：扱ったトピックに関するオリジナルのレポート、Moodle 提出、25%
評価基準	①授業課題：要点を整理して自分の言葉でまとめているか、提出期限を守っているか。なお原則として授業を欠席した回の授業課題は採点対象としない。 ②レポート：社会問題などの事例について、授業で扱った用語・理論・概念を用いて分析し、自分なりの考察を加えて論述できているか。 いずれも研究倫理を守らない（友達の課題を写す、またはネット情報や事典類などから無断引用する）場合は0点とする。

※その他の変更点

セクション名 (欄名)	変更内容
「授業計画」	「定期試験を実施する」を「定期試験を実施しない *定期試験期間中にレポート提出」に変更する。
「授業計画」内の「準備学習」	26回 「定期試験の準備」を「レポートの準備」に変更する。
「授業計画」内の「テーマおよび学習内容」	28回 「定期試験の返却と講評」を「レポートの講評」に変更

科目名	INT301: 国際関係論		担当教員	辛 女林
開講期	春／秋	開講時限	月木3限	

【評価方法：変更あり】

【評価基準：変更あり】

評価方法	1. 授業参加 20% 2. Take-home exam 2回 各 20% 3. 個人課題（レポート）40%
評価基準	1. 授業参加：質疑応答、ディスカッション参加など。 2. Take-home exam：授業内容を正確に理解しているか。 3. 個人課題（レポート）：関心分野に関する問題意識と適切な資料調査。一貫性のある記述。

※その他の変更点

セクション名 (欄名)	変更内容
「授業計画」の中、「テーマおよび学習内容」	第12回、第27回の 授業内試験 と、第25 - 26回の グループ・プレゼンテーションは実施しない 。評価方法は Take-home exam 2回 と、 個人課題（レポート） に変更する。
「授業計画」の中、「テーマおよび学習内容」	合計4回の授業（第12、25、26、27回分）を次のように追加して行う。 ● 現在1回ずつ予定している第4回「現状をどう見るか1：パワーを中心に」と、第5回「現状をどう見るか2：利益を中心に」をそれぞれ2回にわたって実施する(内容的にはこれらの理論－リアリズム、リベラリズムと関連する理論と事例適用)。 ● 第12回(変更後第14回)の「授業内試験」および「プレゼンテーションのグループワーク」は、「実例を通じたレポート作成の説明」に変更。 ● 第27回：「授業内試験」及び「プレゼンテーションに対する評価・フィードバック」は、「グローバリゼーションと反グローバリゼーション」に変更。 * 以上の変更点が反映されたシラバス全体は4月15日にLOYOLAにアップロードする。

科目名	EDU302: 比較・国際教育学		担当教員	杉村 美佳	
開講期	春	開講時限	火金4限		

【評価方法：変更あり】

【評価基準：変更あり】

評価方法	① 授業時に課すリアクション・ペーパー(30%)、② レポート(25%)、 ③ プレゼンテーション (5%)、④ テイクホームエグザム (40%)
評価基準	① リアクション・ペーパー：論題について授業内容をふまえ論理的に考察できているか。 ② レポート：設定したテーマに即して参考文献の内容を的確にまとめ、教育事象を論理的、批判的に考察できているか。書式や提出期限を守っているか。 ③ プレゼンテーション：パワーポイントなど発表を効果的にする資料を準備し、研究内容をわかりやすく伝える工夫をしているか。 ④ 授業内試験：授業内容を理解し、設問に対して正確に解答できているかを評価する。

※その他の変更点

セクション名 (欄名)	変更内容
「授業計画」内の「テーマおよび学習内容」	第 21 回目の「授業内試験」を「テイクホームエグザムの説明および準備」に変更する。

科目名	PHL210: 倫理学		担当教員	丹木 博一
開講期	秋	開講時限	火金4限	

【評価方法：変更あり】

【評価基準：変更あり】

評価方法	① 提出課題（17%）、②リアクションペーパー（28%）、③中間レポート（2,000 字以上）（25%）、④期末レポート（2,500 字以上）（30%）
評価基準	① 提出課題：事前に指示した通り課題を行い提出できたかどうか。 ② リアクションペーパー：授業で説明された倫理学の基本的な概念と学説の意味を、自分の言葉で正しく論述できるかどうか。 ③ 中間レポート：12 回目までの授業で取り上げた倫理学説を一つ取り上げ、それが行為選択のための倫理規範をどのように考えているかを自分の言葉でわかりやすく説明した上で、自分の意見を論述展開できるかどうか。 ④ 期末レポート：13 回目以降の授業で取り上げた倫理学者のなかから一人を選び、その学説のポイントを説明した上で、問いを提起し、理由を挙げて自分の考えを展開できるかどうか。

※その他の変更点

セクション名 (欄名)	変更内容
授業計画	「定期試験を実施する」を「定期試験を実施しない」に変更する。

科目名	LIT323: イギリスの文化と文学	担当教員	山本 浩
開講期	春	開講時限	月木5限

【評価方法：変更あり】

【評価基準：変更あり】

評価方法	課題（2回） 40% 小論文 25% 授業への積極参加 35%
評価基準	課題：授業で取り上げた4つの国、英語の歴史、階級、教育、キリスト教、芸術、メディアなどの基本的な事柄をよく理解したうえで課題に取り組んでいるかを見る。 小論文：指定されたテーマに沿った内容であるか、よく考えられた議論を展開しているかを見る。 授業への積極参加：リアクション・ペーパーにおいて、質問・発言・意見表明などを積極的に行なったかを見る。

※その他の変更点

セクション名 (欄名)	変更内容
「授業計画」内の「テーマおよび学習計画」	・10回目の「テスト①」、および21回目の「テスト②」を実施しない。 ・11回目の「テスト①のふりかえり」を「課題①のふりかえり」に変更する。 ・22回目の「テスト②のふりかえり」を「課題②のふりかえり」に変更する。 ・27回目の「定期試験のふりかえり」を「George Orwell, "A Nice Cup of Tea" を読む（続）」に変更する。
「授業計画」	「定期試験を実施する」を「定期試験を実施しない」に変更する。

科目名	LNG330: 日本語学		担当教員	宮崎 幸江
開講期	秋	開講時限	月 4 限	

【評価方法：変更なし】

【評価基準：変更なし】

評価方法	
評価基準	

※その他の変更点

セクション名 (欄名)	変更内容
「授業計画」内の「テーマ及び学習内容」	第 9 回の「中間試験」を「中間試験（テイクホーム Exam）」に変更する。
授業計画	「定期試験を実施する」を「定期試験（テイクホーム Exam）を実施する」に変更する。

科目名	ENG360: 英語史			担当教員	山本 浩
開講期	秋	開講時限	月木4限		

【評価方法：変更あり】

【評価基準：変更あり】

評価方法	授業参加： 40 % 課題（3回）： 60 %
評価基準	授業への積極参加：リアクション・ペーパーにおいて、質問・発言・意見表明などを積極的に行なったかを見る。 課題：古英語、中英語、近代英語の特徴と英語の変遷に関する基本的事柄をよく理解した上で課題に取り組んでいるか、また、英国史・ヨーロッパ史と英語史との関係についての基本的事柄をよく理解した上で課題に取り組んでいるかを見る。

※その他の変更点

セクション名 (欄名)	変更内容
開講時限	月木5限から月木4限へ変更となる。
「授業計画」内の「テーマおよび学習計画」	・9回目の「テスト①」、および16回目の「テスト②」を実施しない。 ・10回目の「テスト①のふりかえり」を「課題①のふりかえり」に変更する。 ・17回目の「テスト②のふりかえり」を「課題②のふりかえり」に変更する。 ・27回目の「18回～26回の授業の復習と定期試験のふりかえり」を「課題③のふりかえり」に変更する。
「授業計画」	「定期試験を実施する」を「定期試験を実施しない」に変更する。

科 目 名	LNG320: バイリンガル教育		担当教員	宮崎 幸江
開 講 期	春／秋	開 講 時 限	木 4 限	

【評価方法：変更なし】

【評価基準：変更なし】

評価方法	
評価基準	

※その他の変更点

セクション名 (欄名)	変更内容
「授業計画」内の「テーマ及び学習内容」	第 8 回の「中間テスト」を「中間テスト（テイクホーム Exam）」に変更する。
授業計画	「定期試験を実施する」を「定期試験（テイクホーム Exam）を実施する」に変更する。

科 目 名	SLE301: サービスラーニング (小中学校日本語支援 A)		担当教員	河北 祐子	
開 講 期	春	開 講 時 限	月木 2 限		

【評価方法：変更なし】

【評価基準：変更なし】

評価方法	
評価基準	

※その他の変更点

セクション名 (欄名)	変更内容
その他特記事項	現行：本講は「学外での実践的教育を含む開講科目・実務経験のある教員等による開講科目」にあたる。実習がある日は直接派遣先へ行くことになるため、月木 1 限の科目を履修することは できない。 修正後：太字部分を追加 本講は「学外での実践的教育を含む開講科目・実務経験のある教員等による開講科目」にあたるため、木曜日に「対面での実習参加」が可能な人のみ履修できる。実習がある日は直接派遣先へ行くことになるため、月木 1 限の科目を履修することはできない。

科 目 名	SLE302: サービスラーニング (小中学校日本語支援 B)		担当教員	宮崎 幸江
開 講 期	秋	開 講 時 限	月木 2 限	

【評価方法：変更なし】

【評価基準：変更なし】

評価方法	
評価基準	

※その他の変更点

セクション名 (欄名)	変更内容
その他特記事項	現行：本講は「学外での実践的教育を含む開講科目・実務経験のある教員等による開講科目」にあたる。実習がある日は直接派遣先へ行くことになるため、月木 1 限の科目を履修することはできない。 <u>修正後：太字部分を追加</u> 本講は「学外での実践的教育を含む開講科目・実務経験のある教員等による開講科目」にあたるため、木曜日に「対面での実習参加」が可能な人のみ履修できる。実習がある日は直接派遣先へ行くことになるため、月木 1 限の科目を履修することはできない。

科 目 名	SLE303: サービスラーニング（地域日本語支援 A）	担当教員	宮崎 幸江
開 講 期	春	開 講 時 限	火金 5 限

【評価方法：変更なし】

【評価基準：変更なし】

評価方法	
評価基準	

※その他の変更点

セクション名 (欄名)	変更内容
「その他特記事項」	現行：本講は「学外での実践的教育を含む開講科目・実務経験のある教員等による開講科目」にあたる。実習がある火曜日は 4 限終了後派遣先へ移動して実習を行う。 <u>修正後：太字部分を追加する。</u> 本講は「学外での実践的教育を含む開講科目・実務経験のある教員等による開講科目」にあたるため、火曜日 5 限に「対面での実習参加」が可能な人のみ履修できる。実習がある火曜日は 4 限終了後派遣先へ移動して実習を行う。

科 目 名	SLE304: サービスラーニング（地域日本語支援 B）	担当教員	河北 祐子
開 講 期	秋	開 講 時 限	火金 5 限

【評価方法：変更なし】

【評価基準：変更なし】

評価方法	
評価基準	

※その他の変更点

セクション名 (欄名)	変更内容
「その他特記事項」	現行：本講は「学外での実践的教育を含む開講科目・実務経験のある教員等による開講科目」にあたる。実習がある火曜日は 4 限終了後派遣先へ移動して実習を行う。 修正後：太字部分を追加する。本講は「学外での実践的教育を含む開講科目・実務経験のある教員等による開講科目」にあたるため、火曜日 5 限に「対面での実習参加」が可能な人のみ履修できる。実習がある火曜日は 4 限終了後派遣先へ移動して実習を行う。

科目名	EDU322: リテラシーと多文化教育		担当教員	M. Lupas
開講期	秋	開講時限	火金5限	

【評価方法：変更あり】

【評価基準：変更あり】

評価方法	Participation and discussion 50% Reaction papers 50%
評価基準	(1) Participation and discussion: Demonstrate accurate comprehension of the readings and videos as well as show ability to reflect on the contents by responding effectively to the instructor's questions orally or through in-class writing tasks (e.g., checklists, note-taking). Demonstrate understanding of the definition of vocabulary, keywords and key components of literacy by using them to answer the instructor's questions. (2) Reaction papers: Punctuality, completeness and detail in describing, analyzing, and evaluating the video cases studies of teaching. Ability to think critically about the video contents (basic components of reading, key terminology, and concepts of literacy instruction as demonstrated in the videos and readings. Ability to compare one's own learning experiences with those depicted in the videos.

※その他の変更点

セクション名 (欄名)	変更内容
授業計画	Lesson plan for days 10, 13, 20, 22, 26, and 27 mention tests 1, 2, and 3, but there will be no tests. Instead, the students' participation and answers to discussion questions will be evaluated.